



文は信なり

日本クリスチャン・ペンクラブ (略称 JCP)

発行責任者 池田勇人

事務局 〒131-0043 東京都墨田区立花 4-6-13 三浦喜代子方

TEL&FAX 03-3616-8621 郵便振替 00170-0-161838

ホームページアドレス・<http://jcp.daa.jp>

【創立55周年準備号 喜びと感謝と希望】

55周年記念を迎えるに当たって
祈りつつ書き、備える

理事長 池田勇人

今年十月十五、十六日、JCP 55周年感謝の集いをOCC(御茶ノ水クリスチャン・センター)で計画しています。このために、ぜひ祈ってください！

ダビデは遺言歌の中で『私の救いと願いとを、すべて育て上げてくださる』(サムエル二三・5)と神に信頼しきっています。「救い」に関して言えば、人の大切なものを盗み、罪の無い者の血を流し、家庭内の不和を解決できず、民の数を数えることで安全と祝福を確認しようとした罪深さを自覚しつつも、あわれみの神に幼児のごとく赦しを求め一信徒でした。「願い」に関して言えば、家族と民族の救い、王国を支える人物が育つことと考えてよいでしょう。そのため神殿建設にも彼はよく備えて、息子ソロモンに引き継がせてゆくわけです。「育て上げてくださる」―これは前節の若葉を受けて、芽生えさせてくださるという意味です。神を真に恐れて民を治める者は、雲一つない朝の光、雨露が若葉でキラキラ輝くようだというのです。

山村暮鳥は、この朝の息吹の中に、生ける神の臨在を感じて詠っています。

『朝あけ』

朝だ 朝霧の中の畑だ
玉蜀黍(とうもろこし)とかぼちや、豆、
芋

― そしてわたしは神を信ずる ―
まだだれも通らないのか この畑の
なかの径(こみち)を
わたしの顔にひっかかり ひっかかる蜘蛛の巣
その巣を美しく飾る朝露
此のさはやかさはどうだ
― いまこそ わたしは神を信ずる

- 一 祈って備えてほしいこと。
- 二 祈って今日書くべきあかし文を紡いでいこう！
- 三 祈って55周年が互いの励ましと感謝の時となるように：経済が祝されるように：
- 三 55周年からさらにステップアップして、JCPがあかし文章家を育て、日本のキリスト教界をささえてゆける存在と成長してゆけるように。

今回は55周年を迎えるに当たって、8名の理事の方々に、喜びと感謝と希望を中心に寄稿していただきました。

五十五という数字の重さ

副理事長 玉木 功

一つの団体が五十五という歳月を積み重ねることは素晴らしい。その群れの中に自分があるということに感謝と誇りを持つ。満江理事長が大好きなあの熱海の夏期学校は懐かしい。課題文を夜半までかかって審査した。きつかったが、ライターと文章とに対座し良き体験であった。満江、横山、久保田の諸先生と私の四人で審査した時期が長く続いた。毎年必ず提出された方がいた。しかし毎年賞から外れた。満江先生は参加者の多くが受賞し、それを契機に証し文章を書き書くことを願った。毎年落選してしまふその方は現在天国にいる。浅学の人ではない。米国の大学から博士号を授与されている。どうしても入選できないのは主題と文章本文の適合性が欠けているからである。時間がかかったが、数年後受賞され、ご本人と共に私たちも喜んだ。その方とは金子益雄先生（湯河原教会牧師、イエスの

友会委員長）で、高校生のように懸命に勉強された。その姿勢に私は現在でも尊敬し続けている。参加者の中にはベテランでも文章を提出しない人がいて満江先生はそれが不満で、ぼやいていたことがたびたびあった。金子先生について私は最近俳句を書いた（自由律である）。その中の一句。

限りなく 出版祈る 湯河原の師

一九八八年に米国のロバート・シルジェンが、賀川豊彦先生の生誕百念を記念して『賀川豊彦』を書き、出版された。国外の人の伝記執筆は、賀川評価として関心が高い。金子先生はこの翻訳に熱い思いを寄せられ原本を訳し始められた。長年の歳月にわたって。日本での出版を祈りとされた。先生の訳を参照、推敲して賀川豊彦記念松沢資料館が監修されて新教出版社より三月下旬に発行されることになった。A5版、約四百五十ページ、定価四二〇〇円。JPCに属する者としてこの記念の年に会員でもあった方の本が世に出ることに感動している。（駒田隆氏も出版されている。）記念会で外部の方より講演を聞くのではなく、内なる会員の苦労話、感動物語を率直にききたいと願っている。

テーマが大事だ。何を書くのかをこれを機になお真剣に取り組んでいこう。

持続の志と目標をもって

理事 久保田 暁一

私は今、日本クリスチャン・ペンクラブの『創立五〇周年記念誌』（二〇〇二年九月二三日に記念大会開催）を手にながら、その大会時から早くも五年が経ち、五五周年記念を迎えようとしていることに思いを馳せると共に、日本クリスチャン・ペンクラブ（JCP）の今後のあり方について考えている。

JCPは、一九五二年（昭和二十七年）に日本基督教文芸家協会として発足し（初代会長村岡花子氏）、一九六三年（昭和三八年）に日本クリスチャン・ペンクラブと改称して歩み続けて今日に至っている。そして、「文は信なり」と銘した葉にも銘記されているように、会の基本的活動と目標を、「古今のキリスト教文学やあかしの文章を読み、学び、書き、本にし、広げてゆく」ことにおき、それらの活動が、関東・中部・関西・北海道などのブロックの会員によって持続的に志向・実践されてきているのは喜ばしい。

しかし、今後考え、目指すべき問題は多い。その主なる二点をここで挙げておきたい。

い。

第一は、組織の和と結束を高め、強力に活動して、キリスト教界において注目される地歩を占めるようになること。そのためには、たとえば、優れた書き手の会員を輩出できる母胎となる研究会、出版された本・冊子などを頒布する協力体制の確立、所属教会や地域で信頼される活動が求められると思う。

第二は、あかし文章を書く意味を深く理解すると共に、書く技法の修練に努めていかねばならない。書くことは自己を見つめて掘り下げると共に、自分が訴え、証したいことを、如何に客観的に表現し、読者の胸に響くものを書き得るかを問われているのである。私自身もJCP会員の一人として、持続の志と目標をもって学び続け、よき成果を挙げて行きたいと思っている。

★★★★★★
★★★★★★
★★★★★★

光陰は矢の如し
理事 長谷川乃武男

「光陰矢の如し」と言いますが、月日の経つのは全く早い。私がJCPに入会したのは五十七歳のとき。あれから二十五年の歳月が経つ。当時は、若いつもりでいた。いや、確かに若かった。

だが、気がついたら、いつの間にか老人の仲間入り。それも、例会で周りを見渡すと最年長のような。間違いなく老人だ。先輩のペン友も一人去り、二人去り、あこがれの天に凱旋してしまった方もたくさんおられる。私にも、そのうち主からお呼び出しが来ることだろう。

数えてみたら。数えてみなくても、間違いなくあの日(五〇周年記念大会の日)から五年の歳月が過ぎ去ってしまった。それも、アツと！ いうまに。

五〇周年記念大会(五年前)の当日、池田理事長を始め、大会出席者全員が、「今日日は、JCPの百周年に向ってのスタートの日です」と祝いあってから、五年(百周年までの五〇年の十分の一)が過ぎ去ってしまった。

こうしているうちに、新しい年が次々とやって来ては去り、JCP百周年記念大会の日が賑々しくやって来ることになる。

その時、いま活躍しているペン友の誰かがいるだろうか。考えただけでも胸はわくわくするし楽しくなってくる。その時、JCPはどんなに大きくなっているだろう。「証し文章」によって、わが日本民族も、どんどん回心し、救われ、世界でも有数のクリスチャン大国となっていることだろう。だってペン友の皆さんが、日夜一生懸命、祈り、ペンを取って「証し文」を書き、多くの人がこれを読んでもくれるのだから、そのようなになっているに違いない。

過去のことは考えない。言わない。ひたすら主なる神様、御霊なる聖霊様をお願いするのみ。全国におられるペン友の皆さんと切磋琢磨しあい、「良き証し文」を書き、発表し、主に大いに喜ばれよう。

足跡をつづるあかし

理事 川上与志夫

クリスチャン・ペンクラブの目標は、証しによって人びとをキリストの救いに導くこと。証しは、語ること、書くこと、生きることによってなされる。人生の一足一足も、大地に記す文字。すぐれた足跡文字の説得力。その偉大さ。これこそが本物の証し。そんな風に生きたい。そんな風に人を導けたならいいのに・・・。

本を手に取り、目次に眼をとおす。「おやつ」と興味をそそられて、読みはじめる。読みながら心が揺さぶられる。読み終えて眼を閉じ、しばし余韻にひたる。感動の余韻は鳴りやまない。

玉木功先生から息子さんの思い出集『ガリラヤの風かおる』玉木真一の足跡』が贈られた。

大学を卒業して聖路加国際病院に勤務し、医療情報マネジャーとして活躍された真一さんは、過労のためだったろうか、四十四歳で急逝。

本には、多くの同僚や友人が稿を寄せて

いる。思い出からにじみ出た愛惜の想いは、真一さんの生きざまがただものでなかったことを物語っている。彼は人に信頼され、愛され、人の融和をはかり、ボランティアの精神に生きた。これほどなくてはならない人物が他にいるだろうか。思い出は真一さんをよみがえらせてやまない。

人びとや社会に必要とされる人。イエスはそういう「証し人」を求められた。語るだけでない、書くだけでない、行動の人。日常の一足一足が証しそのものである人。これが本物のキリスト者であるにちがいない。

ペンクラブの内外にも、すぐれた証し人がいる。信仰に生きた人のさわやかな足跡をみんなをつづるのも、意義ある証し。仲間や知人の足跡であれば、なおのこと。

今年はペンクラブ五十五周年。行為の花をペンが「ガリラヤの風」となって撒き散らす。仲間の伝記や思い出を、そんな風に吹き渡らせたいと願っている。

感謝と喜び

理事 浅見鶴蔵

JCPに関わりを持って早いもので、故理事長満江巖先生から入会を誘われてから、二〇年近くになりました。熱海ビレッジの夏期学校で、師の厳しい言葉に黙々と準備をしていた女性方に心引かれ、手助けになればと思ってお手伝いをしたのが入会のきっかけでした。そのあとは毎年準備をさせていただき、以来、親しい交わりをさせていただいております。

記録によりますと、創立当時キリスト教文筆家協会としていた会の名称が、昭和三八年四月に日本クリスチャン・ペンクラブと改称されました。

文書伝道に関心を持つクリスチャンであれば誰でも入会することができるよう門戸を広げ、「あかし文章の道を学ぶ会」としてサラリーマンや主婦等初心者の人たちにも広く呼びかけ、会員を募ったようです。

初代の会長は村岡花子氏。馬場嘉一、佐古純一郎、高瀬恒徳、園部不二夫、米田勇、野辺地天馬の文筆家たちが会員として名を連ね、次の五項目が掲げられていました。

一、書かれた文字の重要性に目覚めること。

二、文書伝道への熱意を持つこと。

― 文は信なり ―

三、あかし人として、よき文章を創作すること。

四、わが生涯がキリストの作品として与えられていることを自覚し、信仰生活に励むこと。

五、文章による交わりを重んじ、愛と奉仕の生活に精進し教会生活に励む。

夏期学校では「新人賞」「優秀賞」をいただき、夏期学校や研修会に参加するたびに講師の方々の文章論に力づけられてここまで来ることができ感謝と喜びでいっぱいです。

創立五十五周年を向えるにあたり、これを契機に研修会の充実、若返り、支部間の交流等が益々盛んになり、先達の書かれた前文の五項目を心に刻み、池田勇人理事長を中心として六〇年に向けて前進していきたいと願っています。

そうして、これから
理事 西山純子

日本クリスチャン・ペンクラブ創設五十五周年記念のこの時、会員の一人としてまた理事として、ここに置かれている恵みと心の底からあふれてくる思いがあります。

前理事長の満江巖先生は、「私の最後の弟子だと思っている。そのつもりで頑張ってもらいたい」とおっしゃいました。当時の私にとって、個性の強い先生の真意がわかる筈もなく、時には反論し激しい愛の叱責をもいただきました。

十五年の歳月が流れ、拙い私にも嘗ての師が願ひ求めておられたことを、理解させていただけようになりました。「種は蒔いて欲しい」と、折々言われたことも思い起こします。

今が、特別に与えられた、気づくその時、と覚えます。

五十五周年のこの機に、華やかでなくてもいい、次の新芽を大切に育てることが、私たちの重要な使命ではないかと考えるのです。あかしの文章を書き表していく上に

も、この日本クリスチャン・ペンクラブという決して大きくはない、けれど揺るぎない土台の上に築かれた組織の、次世代への伝達・継承を願っています。

優れた人材を望むのみでなく、丁寧に着実に、共に担って下さる人を育成していく機会だと思っております。

神よりいただいた賜物は、どんなに小さく地味なものであっても、多くの兄弟姉妹が担い合い、その恵みを分かち合い、養い合って、やがて新芽から蕾になり花開いていくのでしょうか。その祈りが、これからの理事たちの課題ではないでしょうか。

一つの業を、限られた少人数で荷を負って進んで行くことより、何人もの人々が担い合って成果を挙げていくことは、さらに困難なことも出てきます。でも、神様は完全なものを求めてはおられません。謙虚に聴き従い、できる限りのことを感謝と喜びをもって仕えよと示されています。この祈りを与えられたこの時を感謝します。

JCPとあかし文章の行く道
理事 三浦喜代子

私のJCP年齢は今年ちょうど二十歳。夏期学校目指して、課題文の四〇〇字一枚を手に、あの熱海ビレッジへの急な坂道を上った日を懐かしく思い出します。

入会五年後の四十周年の時、記念のあかし文章コンクールに張り切って応募しました。感謝なことに私の作品『この愛に生きたとき』は入賞の栄に浴し、故満江巖理事長直筆の立派な賞状と賞金をいただきました。この賞状は今も大事に保管してあります。

その時の主題講演のなかで、加藤常昭師が「あなたの文章は朗読に耐えうるか」と力説なさったひと言に大きな衝撃を受けました。文章の奥義にリズムがあることを知りました。

満江師を天に送って、五十周年の時には、文章コンクールの審査員の立場を与えられ、全国からの応募作品を厳粛な思いで読み、審査させていただきました。

新理事長池田勇人師から主題に『ことを紡ぐ喜び』が掲げられました。ひと言の言葉も粗末にできないことを知りました。

そして、二十年間一貫して鳴り響いているのは、故満江師の『文は信なり』です。一番大切なのは文章の魂であることを今も肝に銘じています。

同時に、かの三浦綾子氏が「文学的にどうであれ、キリストの福音を書かずにはいけない」と言い切ったキリスト者作家の心構えを、あかし文章道の極意としたいと思います。

転じて、今や、IT革命の旋風は地球規模で世を席卷しています。JCPといえども見過ごしにはできません。むしろ活用次第では今までとは違った地域、多種多様な人々にキリストの福音を送ることができず。これからはJCPの一人一人が自分にあつたアンテナを建て、小さな三浦綾子になつてあかし文章を発信していく時代ではないかとしきりに思います。

そのためには、文章の技術や信仰の成熟のために、学びやブロック間の連携を密にしていけることがいっそう必要ではないかと考えています。

2006年会計報告書

収入		支出	
前年繰越金	270,570	文は信なり・2回	35,324
年会費 52名	260,000	郵送発送費	26,716
入会金 3名	15,000	広告宣伝費	57,870
献金 * 1	115,000	理事会諸費	182,812
		事務消耗品費	6,453
注 * 1 10万円は関東よりの献金		慶弔費	26,066
		事務局通信諸費	60,000
		HP管理料	8,210
		次年度へ繰越金	257,119
合計	660,570	合計	660,570

2007年2月20日

会計 山本披露武 三浦喜代子
会計監査 駒田 隆 長谷川和子

JCP55周年記念感謝の集い 準備状況報告

昨年の理事会決定を受けて、今年2007年はJCP創立55周年を記念して感謝の集いを持つことになりました。皆さまには各ブロック事務局を通してご存知と思います。

計画を進めるにあたり、実行委員会が結成されました。すでに1月、2月と委員会が持たれました。その状況をご報告いたします。どうぞ熱いお祈りとご支援、ご協力をお願い申し上げます。

1月15日 第1回実行委員会から

- * 名称 JCP55周年記念感謝の集い
- * 目的 55年の歩みを感謝し、明日のあかし文章に希望を持ち互いの志を一つにする。
- * 日時 2007年10月15(月)～16日(火)
- * 場所 お茶の水クリスチャンセンター(東京)

- * 全体委員長 理事長 池田勇人
- * 実行委員長 理事 三浦喜代子
- * 実行委員 浅見鶴蔵 駒田隆 山本披露武 西山純子 長谷川和子 島田裕子
紙上参加 各理事、各ブロック事務局

今後の議題を確認しました。

- * 案内書作成と発送 * プログラム * 予算 * 講師選定 * 記念文書作成 * 宣伝公告など。

2月23日 第2回実行委員会から

案内諸文書(55周年の趣意書、集いへの参加呼びかけ、申込書等)は池田師中心に作成し、5月末までに会員全員に発送する。

予算案を作成しました。2日間の集い参加費は8000円(諸集会参加費とレセプション代)とする。

講師選定は理事会に委ねる。

以上のようなことが話し合われました。

次回は3月31日。プログラム立案に入ります。 (報告・三浦喜代子)

事務局便り

三浦喜代子

◎2007年1回目第17号をお届けします。今年我がJCPは55周年の輝かしい年を迎えます。10月15～16日に行われる《記念感謝の集い》のために祈りましょう。また、参加できるように今から備えましょう。

◎55周年実行委員会が準備を始めました。委員会と委員ひとりひとりの働きのためにお祈りしましょう。

◎祈りの課題

各ブロックが祝福されますように。ブロック事務局と担当者が支えられますように。

◎会員一人一人のあかしの文章活動(読み、学び、書き、広げ、本にする)が強められ、祝されますように。

◎▽JCPホームページが多くの方々に用いられますように。アドレスは表紙に。

◎あかし文章に関心を抱く方々が起こされ新規会員が与えられますように。

■ 報告

昨年出版しましたあかし新書27号は皆様
の力強いご支援により完売しました。ご協力を心から感謝します。左の収支明細書をもって報告します。

あかし新書27『生かされている喜び』収支明細書

収入		支出	
分担金	521,000	印刷代金	651,000
賛助金	70,000	校正・編集費用	72,896
販売代金	176,000	55周年へ献金	43,104
	767,000		767,000

2006/12/31

日本クリスチャンペン・クラブ会計 山本披露武 三浦喜代子

55周年に寄せて

中部ブロック事務局 坂口良彬

☆55周年記念の一翼を、中部から担わせていただくことになり、入会以来の過ぎにし月日が甦ってまいります。皆様どうぞよろしく。

関西ブロック事務局 小川恵子

☆この数年間、世の中は暗く重苦しくなりました。神の愛と導きが必要な時代です。文書伝道の使命を感じさせられております。

実行委員 山本披露武

☆55周年感謝の集いの実行委員に加えられる身の引き締まる思いがいたします。微力ですが、皆様と共に頑張りたいと思っています。

実行委員 島田裕子

☆初めてJCPに参加したのは50周年記念会でした。55周年で奉仕できる幸いを感じています。先輩兄弟のあとについていきます。

実行委員 長谷川和子

☆式典には様々なご用があると思いますが、何でも屋を自認、主のお守りと皆さまのお祈りによって、成功させましょう。

実行委員 駒田 隆

☆花と言えは、俳句では桜を指します。そこで、こんな句はいかがでしょうか。「花あかり 神の膝下にあることし」(古賀まり子)